所報むろと

独立行政法人　国立青少年教育振興機構　国立室戸青少年自然の家

－ National MUROTO Youth Outdoor Learning Center －

第 39 号

－令和７年度事業報告等－

所報発刊にあたって

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家
所長　　西岡　敬三

この度、令和 7（2025）年度に実施いたしました事業報告を取りまとめ、「所報第 39 号」を発刊する運びとなりました。関係機関・関係者の皆様にご高覧いただき、忌憚のないご意見やご助言を賜れば幸いです。

さて、今年度は当所にとって大きな節目の年となりました。令和 7 年 10 月 5 日には、地元国会議員の先生方をはじめ、100 名を超える関係各位のご出席を賜り、「開所 50 周年記念式典」を盛大に挙行いたしました。

今から 50 年前、地元室戸市や高知県民の熱い想いを受け、ここ崎山台地に国内初の国立少年自然の家として誕生した記念すべき日を振り返る一日となりました。式典では、高知大学大学院スポーツ・芸術文化共創専攻他の方々によるガムランやヴァイオリンの演奏、土佐室戸勇魚太鼓の力強いパフォーマンスにより華を添えていただくとともに、むろと廃校水族館のご協力のもと、当所の未来への願いを込めてウミガメを太平洋へと放流いたしました。

一方、運営面においては大きな転換期を迎えております。令和 7 年 8 月には、国立青少年教育施設の振興方策に関する検討会報告書がまとめられ、機能の強化や適正化、さらには再編等の厳しい指摘がなされました。また、令和 8 年 2 月 20 日には、文部科学大臣より次期中期目標が示されました。その中では「青少年教育のナショナルセンターとして、我が国の人づくりの根幹を担い、先導的な役割を果たすこと」が当機構の使命として明記されております。

社会情勢や組織の在り方が厳しく問われる今、日本初の国立少年自然の家としての責任の重さを改めて痛感しております。新たな半世紀へと歩みを進めるにあたり、創立時にも勝る情熱を持ち、一層の努力を重ねてまいる所存です。

関係の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

目　　次

令和７年度事業報告

巻頭言

教育事業

●教育事業一覧 ―――― ３

●「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸 ―――― ４

●Ｍキャンプ「金曜から夜ふかし」「ブラムロト」 ―――― ９

●ボランティア養成講座～ボランティア活動はじめの一歩～ ―――― １１

●フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう！～ ―――― １４

●開所５０周年式典 ―――― １７

●くろしお祭り ―――― ２２

●防災キャンプ in 室戸 ―――― ２３

●むろと元気塾～親子で室戸に泊まり隊！ ―――― ２５

●室戸ボランティアリーダー活動報告 ―――― ２８

研修支援

●活動プログラム指導状況一覧 ―――― ２９

管理運営報告 ―――― ３０

広報活動 ―――― ３１

利用実績 ―――― ３２

令和7年度教育事業一覧

（むろと黒潮・体験の風をおこそう運動実行委員会主催事業を含む）

国立室戸青少年自然の家

月	日	事　　業　　名	募集人数	応募人数	参加人数	備　考
8	9～11	「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿in室戸	20	19	16	
	22～23	Mキャンプ～金曜から夜ふかし	50	55	50	
	25～26	Mキャンプ～ブラムロト～	50	61	41	
	30～31	ボランティア養成講座～ボランティア活動はじめの一歩～	50	21	21	
9	14～15	ボランティア自主企画「フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう！～」	30	27	27	
10	5	くろしお祭り【開所５０周年記念式典】	-	-	167	式典参加者数含む。
	25～26	防災キャンプｉｎ室戸	20	15	15	
12	14～15	【生活・自立支援キャンプ】むろと元気塾～親子で室戸に泊まり隊！～	40	28	25	
通年	-	【実践研究事業】幼児期の運動プログラム	-	-	66	田野町立田野小学校１・２年生を対象に計２回実施。
通年	-	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	-	-	181	４園を対象に計４回実施。

○ボランティアリーダー関連

9	14～15	ボランティア自主企画「フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう！～」	-	-	17	関与した法人ボランティアの総数
2	21～22	リーダートレーニング	-	-	6	

令和７年度　全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 in 室戸「室戸で新しい自分発見プロジェクト」

１．事業の概要（個別参加型で実施）

（１）　事業の趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養う。

（２）　実施期間

令和７年８月９日（土）～８月１１日（月・祝）

（３）　参加者

高校生１６名（高知県３名、徳島県１１名、愛媛県２名）

（４）　活動日程

	８月９日（土）	８月１０日（日）	８月１１日（月・祝）
午前		起床・朝食＜食堂＞ 講義・演習②「課題解決の基礎」 フィールドワーク①「地域の魅力を発見 B」（川島氏、仙頭氏） 【ビーチコーミング＆クラフト体験 -室戸の「海」の魅力を体験!- 】	起床・朝食＜食堂＞ 講義・演習④ 「行動計画の基礎」 発表② 【わたしの行動計画】
午後	受付（１２：００～）・昼食＜食堂＞ 開講式・ガイダンス 講話「地域づくりの実践」 【わたしの見つめる室戸】 （久保氏、村上氏、山本氏、高田氏） フィールドワーク①「地域の魅力を発見 A」（村上氏） 【木育　-室戸の「山」の魅力を体験!- 】	昼食【室戸の魅力いっぱい弁当】 ＜室戸世界ジオパークセンター＞ フィールドワーク②「地域課題の探究」（山本氏） 【室戸世界ジオパーク -大地誕生の最前線を体験!- 】 講義・演習③「地域課題の探究 A」	昼食＜食堂＞ 実践活動のためのガイダンス 閉講式 解散・バス出発 （１５：３０）
夜	夕食＜野外炊事・カレー作り＞ 講義・演習①「地域理解」	夕食＜食堂＞ 講義・演習③「地域課題の探究 B」 発表①	

２．事業の様子

＜１日目＞

高知県及び徳島県内すべての公立高等学校（中等教育学校を含む）、並びに四国四県に広報した結果、１６名の参加者での実施となった。

開講式・ガイダンスの後、講和「地域づくりの実践」として、室戸市役所まちづくり推進課まちづくり推進班の久保智貴氏、同集落支援員の高田隼人氏、同市まちづくり産業振興課地域おこし協力隊の村上邦子氏、同市観光ジオパーク推進課地域おこし協力隊の山本敬悟氏の４名から、【わたしの見つめる室戸】と題してお話を伺った。それぞれの立場からどのような経緯で室戸のまちづくりに携わっているのか、現在どのようなことに取り組んでいるのか等具体的に伺うことができた。

次に、講義・演習①「地域理解」として、４名の講師から伺った内容や室戸市総合振興計画や室戸市市勢要覧などを参考に、室戸市の魅力や課題についての意見を出し合い、一人ひとりが室戸市に対する理解を深めることができた。

その後「フィールドワーク①『地域の魅力を発見』」として、村上氏に【木育 -室戸の「山」の魅力を

体験！-】と題し、村上氏が携わっている「椎（しきみ）」に触れたり、土佐備長炭の原料となるウバメガシを所内で探したりする活動を行った。参加者の多くは室戸市に対して海のイメージが強く、初めて知る室戸の山の魅力に気付くことができた。

夜は野外炊事を通じて親睦を深めた。講師のみなさんともざっくばらんに様々な情報を交換し、２日目以降の活動がより充実したものになる雰囲気が感じられた。

＜２日目＞

講義・演習②「課題解決の基礎」では、これからフィールドワークを実施するにあたり、自分なりのテーマを設ける時間をとった。また、「課題解決のプロセス」の図を示し、これからの活動がどこに位置付くのかを意識しながら取り組むようにした。

「フィールドワーク①『地域の魅力を発見』」では、椎名集落活動センター「たのしいな」に移動し、【ビーチコーミング＆クラフト体験 -室戸の「海」の魅力を体験！-】と題し集落活動支援員の川島尚子氏、仙頭由紀氏らにビーチコーミングと写真立て作りをご指導いただいた。浜に流れ着いたシーグラスや貝殻などを集め、それらを用いて写真立てを作った。「最初はビーチコーミングに対してあまり期待していなかったけれど、やってみると意外に楽しかった。 クラフトは夢中で一言も喋らず取り組むことができました。」この感想のように、参加者皆が夢中になって活動に取り組む姿が印象的であった。

午後は、室戸世界ジオパークセンターに移動し、フィールドワーク②「地域課題の探究」として、【室戸世界ジオパークー大地誕生の最前線を体験！ー】と題し、山本氏にセンターの展示をご案内いただいた。その後室戸岬に移動し、「室戸市観光ガイドの会」の方々に室戸岬をご案内いただいた。「ガイドさんが詳しく説明してくださったり、面白いポイントについて話したりしてくださったり、宝探しみたいに石を探したのが楽しかった！」など、その道に詳しい方のお話を伺うことで魅力を実感することができる機会となった。

帰所後、講義・演習③「地域課題の探究」として、フィールドワークを通して感じたり考えたりしたことを振り返った。残念ながら一人ひとりが考えていたテーマに沿うフィールドワークとはならなかった。その後活動班単位でテーマを設定し直し、改めて探究していくことになった。探究学習における課題設定の難しさを実感する機会となった。

発表①では、活動班ごとに設定したテーマ（課題）と、その解決策についての案をプレゼンテーション形式で発表した。質疑応答において、所長から「課題解決力」と「実現可能性」について自己評価を行うよう助言があった。この視点が加わったことで、参加者の提案がより具体性のあるものになり、翌日の発表②がより充実したものになることが感じられた。

＜３日目＞

講義・演習④「行動計画の基礎」において、２日目までで考えてきた地域課題解決案の考え方やプロセス等を参考に、各参加者の地元における行動計画を立案した。途中班のメンバーに向けたアウトプットの機会を設け、講師や班員からのフィードバックを受け、資料作りの改善を行って発表②に臨んだ。

発表②では、アートを活用した商店街の活性化案や自転車道を活用した観光振興案、祭りの再開による地域振興案など、いろいろな視点に着眼したアイデアが発表された。前日よりも「課題解決力」や「実現可能性」が意識された提案が増え、合宿の成果が感じられた。任意の活動にはなるが、実践活動や報告書作成に取り組めば、きっと素晴らしいものになるだろうという期待がもてた。

最後に、「実践活動のガイダンス」と閉講式を行い、令和７年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸「室戸で新しい自分発見プロジェクト」は終了となっ

た。涙を流しながら別れを告げる参加者もおり、３日間が参加者にとって充実したものになったことが感じられた。

３．事業の成果と課題

○　参加者の感想

・自分はコミュニケーションを人と取るのが苦手な方で、発表などは緊張したが、少しはこの活動を通して話されるようになった。他の県の人との交流ができて楽しかったし、自分を見つめ直す機会にもなった。

・一人ではなかなかできなくても、協力することが大切と最後に言っていたので、今取り組んでいる活動でも、支援者を自分で見つけていきたい。とっても楽しくて学びのある二泊三日だった。

・二泊三日が一瞬と感じるくらい、本当にあっという間だった。自分の考えが整理できたし、交友関係も広がったと感じている。人と関わること、自分の知らない世界に足をつっこんでわかるまで探究することが大好きなので、今回のプロジェクトは自分にぴったりだった。

○　事業の成果

・参加者のアンケート結果によると、本事業の総合的な満足度について、「満足」、「やや満足」と回答した参加者の割合）は、１００％であった。

・定員２０名に対し、応募者が２０名だった。キャンセルにより１６名での実施となったが、昨年度の２倍以上の高校生に応募いただいた。広報手段の改善が功を奏したと考えられる。

・高知、徳島、愛媛の３県から参加者が集まったことにより、話合いが多角的で充実したものになったと感じられた。

・ある参加者アンケートの回答に「手厚いサポート、臨機応変な対応をそばで見ていて、すごく安心感があった。心から来てよかったと思えた。」との記載があった。講師の皆様の講和やフィールドワーク、指導や助言により、参加者が安心して３日間の合宿を過ごすことができたと思われる。

○　事業の課題

・「探究のプロセス」における「課題の設定」に戸惑っている様子が見受けられた。また、設定した課題とフィールドワークの内容にずれがあるケースが多く、課題を再設定することになった。テーマを絞った事業にすることでそのようなことは少なくなると考えられるので、次年度以降はより参加者の興味・関心に沿ったプログラムを提供できるよう努めたい。

・参加者の８１％（１６名のうち１３名）が女性であった。より多くの男子高校生にも魅力的な事業になるよう、プログラムの内容を工夫したい。

令和７年度　地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

Ｍキャンプ　①～金曜から夜ふかし～　②～ブラムロト～

１．事業の概要

○　趣旨

むろと廃校水族館に宿泊し、海洋生物とのふれ合いを通して海への興味関心を持つとともに、海洋環境について考える場を提供する。

○　実施期間

①令和７年８月２２日（金）　～　令和７年８月２３日（土）１泊２日【金曜から夜ふかし】

②令和７年８月２５日（月）　～　令和７年８月２６日（火）１泊２日【ブラムロト】

参加者数

①【金曜から夜ふかし】５０名

②【ブラムロト】４１名

○　共催　　むろと廃校水族館

○　活動プログラム

①金曜から夜ふかし		②ブラムロト	
8/22（金）	8/23（土）	8/25（月）	8/26（火）
13：00 送迎バス （高知方面）出発 15：30 むろと廃校水族館　受付 16：00 はじまりの会 ・本物のカメの甲羅を貼ったカメイシ作り＆交換会 ・飼育員体験 夕食 ・ウミガメの産卵に配慮した元大橋照明、灯台の見学 ・きもだめし シャワー後就寝	8：45　寝袋片付け 朝食 9：30 ・放流ウミガメの身体測定、甲羅磨き ・ウミガメ放流 昼食、閉会式 13：00 むろと廃校水族館 解散・バス出発 16：00 送迎バス （高知方面）到着	13：00 送迎バス （高知方面）出発 15：30 むろと廃校水族館　受付 16：00 はじまりの会 ・本物のサメの歯を貼ったサメイシ作り＆交換会 ・放流ウミガメの身体測定 ・漁師町散歩 ・ウミガメ放流 ・浜弁当、花火 シャワー、館内生物観察 就寝	6：00　起床、寝袋片付け 椎名散策 ・朝食 8：00 ・飼育員体験 ・サメの解剖 昼食、閉会式 13：00 むろと廃校水族館 解散・バス出発 16：00 送迎バス （高知方面）到着

２．活動の様子

○水族館の飼育員体験を通して海洋生物の生態や、どの様な環境が海洋生物にとって過ごしやすいのか、また、ウミガメの身体測定や放流を通してどの様な活動をしているのかを学んだ。

○普段は見れない夜間の海洋生物の様子や、水族館館内のどこで寝るかは自分で決め海洋生物と一緒に就寝した。サメの解剖では、胃の中に残っている物やサメの臭いに驚いている様子が伺えた。

（甲羅磨きの様子）

（ウミガメ放流の様子）

（サメイシ交換の様子）

（サメ解剖の様子）

（水槽清掃の様子）

３．事業の成果と課題

○　参加者の感想

・普通はできないカメの掃除や放流ができて良かった。
・優しく生き物の事を詳しく教えてくれた。
・もっと生き物の事が知りたくなった。
・夜になったら昼にいる魚とは違う魚が出てきたりしていた。
・色々なことができて、すごく楽しかったし勉強になった。
・夜の魚を見せてくれた。
・サメが臭かった。
・生物の命を大切にしたいと思いました。

○　事業の成果

・普段触れることのない海洋生物と触れ合うことで、海洋生物への関心が高まり、そこから現状の海洋問題についても考える様子が伺えた。
・海洋生物の昼間の姿だけでなく夜間での姿を見ることができ、昼間との違いに驚いている様子が見られた。
・インターンシップ生を加えることで、興味や疑問に思ったことを積極的に聞いている様子が見られた。

○　事業の課題

・参加申し込み数が 100 名を超える事業であり、より多くの児童に体験してもらう為１泊２日で２回実施したが、半数程の参加者から１泊２日ではなく２泊３日で参加したという意見もあり、回数や泊数を検討する必要があると思われる。

ボランティアの養成・研修事業

ボランティア養成講座～ボランティア活動はじめの一歩～

１．事業の概要

○　事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○　実施期間

令和７年８月３０日（土）～８月３１日（日）　１泊２日

○　参加者数

２１名　（高知県立大１２名、高知大６名、鳴門教育大２名、高校生１名）

○　講師

瀬沼　健　　氏（高知県キャンプ協会 会長）

田辺　秀　　氏（WILD BLUE 代表）

国立室戸青少年自然の家　職員

○　活動プログラム

８／３０		８／３１	
8：00	送迎バス　後免駅出発	7：15	朝のつどい
10：00	自然の家到着・受付・開講式	7：30	朝食（食堂食）
10：15	【青少年教育】(1.5ｈ)	8：45	退所点検
11：45	入所オリエンテーション、昼食	9：00	【ボランティア活動の技術②】(3.0h)
12：45	【青少年教育施設の現状と運営】(1.0ｈ)		「野外炊事」
13：55	【ボランティア活動の意義】(1.5ｈ)	12：00	休憩
15：35	【ボランティア活動の技術①】(1.0h)	12：30	【安全管理②】(1.5h)
16：45	【青少年教育施設におけるボランティア活動内容理解】(1.0ｈ)		「熱中症対策・緊急時の対応」
		14：10	【ボランティア登録制度について理解する】(1.0ｈ)
17：45	夕食（食堂食）		
18：30	【安全管理①】(1.5h)	15：20	閉講式
	「危険予知トレーニング」	15：35	送迎バス　出発
20：00	入浴・配宿・情報交換会（自由参加）	17：35	後免駅　到着
22：00	就寝		

２．活動の様子

瀬沼健氏（高知県キャンプ協会　会長）、田辺秀氏（WILD BLUE　代表）を講師にお招きして講座を実施した。「青少年教育」及び「青少年教育施設の現状と運営」について、当所の西岡所長に講義とグループワークを実施していただき、青少年教育についての理解を深めた。瀬沼・田辺両氏には、「ボランティア活動の技術（①アイスブレイク・野外レクリエーション、②野外炊事）」、「青少年教育施設におけるボランティア活動内容理解」、「安全管理（①危険予知トレーニング、②熱中症対策・緊急時の対応）」についてご指導いただいた。その他のプログラムは当所職員が担当した。適宜グループワークや演習を取り入れながら、実践的に学ぶことができた。

３．事業の成果と課題

○　事業の成果

・実施後に行ったアンケートによると、いずれのプログラムにおいても参加者の満足度（「満足」、「やや満足」と回答した参加者の割合）は１００％であった。

・*最初は緊張していましたが、一歩踏み出して本当に良かったです。今回をきっかけにボランティア活動に積極的に参加しようと思います。お世話になりました。ありがとうございまし*

た。

・ボランティアの意義を理解できた。初対面でもこのような体験活動によって仲良くなれる、チームワークを磨けるということにも気づくことができた。ボランティアをすることは人のためになるだけでなく、自分の楽しみにも繋がると感じた。

・ボランティアとは何か、なぜレクを行うのか、など、青少年教育の本質について学ぶことができた。また、様々なリスクと、リスクに備える方法についても学ぶことができた。レクやカレー作りなど実体験も通して深い学びを得られた。

以上のように、ボランティア活動の意欲の高まりや新たな気付きを促すことができた。

・【安全管理①】において「危険予知トレーニング」を実施した上で、【ボランティア活動の技術②】「野外炊事」を行ったことで、より実践的な演習を実施することができた。

・昨年度に引き続き情報交換会（自由参加）を実施し、参加者が講師や職員と直接話をする機会を設けたことで、参加者同士の親睦が深まり、翌日の講義・演習がより活発になった。

・遠方からの参加者の獲得や学生の予定に柔軟に対応するため前泊を可とした結果、２名の前泊希望があった。事業の運営体制を整えることができれば今後もこのような方策が有効であると考えられる。

○　事業の課題

・参加者数が目標値（１施設４１人）に届かなかったため実施時期を５月から８月に延期することになった。高知大学と高知県立大学の学生によるボランティアサークル「室戸ボランティアリーダー」の新入生獲得が芳しくなかったことが一番の要因であると考えられる。また、今年度より他の大学や高知県東部の高校への広報も実施したが、３名の獲得に留まった。来年度以降も法人ボランティア養成に向け、大学・高校への働きかけ等を早期に実施するなどし、参加者の獲得に努める必要がある。

・１泊２日で規程のカリキュラムを実施するには、時間割がタイトあるため、オンデマンド講習を導入したり、所外で講座を実施したりするなどして参加者の拘束時間を減らし、時間割にゆとりを持たせられるような取り組みを検討する余地がある。

令和７年度　高校・大学生のためのボランティア活動推進事業　自主企画事業支援プロジェクト

フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう！～

１．事業の概要

（１）企画・運営

国立室戸青少年自然の家所属の法人ボランティア

（２）事業のねらい

自然と触れ合うレクリエーションや木材を活用した体験活動を行うことで、人と森との関わりや自然環境について主体的に考えられるようにする。

（３）協力

こうち森林救援隊

（４）実施期間

令和７年９月１４日（日）～９月１５日（月・祝）

（５）活動場所

国立室戸青少年自然の家

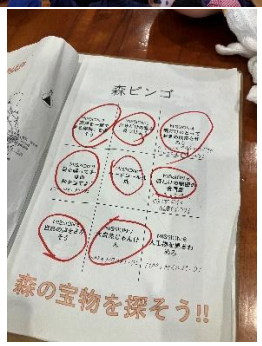
（６）参加者

チラシやホームページを見て応募をした、高知県内の小学４～６年生　２７名

２．事業の様子

９月１４日（日）	９月１５日（月・祝）
8:55　はりまや橋観光バスターミナル出発	6:00　起床・朝準備
11:30　国立室戸青少年自然の家到着	6:30　朝のつどい
11:45　開講式	6:45　朝食（カートンドッグ）
12:00　昼食（食堂）	8:00　テント片付け
13:00　アイスブレイク	9:30　モリの資源にフレて、作って！（竹クラフト）
13:30　モリとフレ合おう！（森ビンゴと木工工作）	11:30　昼食（流しそうめん）
15:30　テント設営	12:30　ふりかえり・アンケート
16:30　モリモリ学んで、食べて！（野外炊事）	13:00　閉講式
19:30　入浴	13:30　事業終了・バス出発
21:00　ふりかえり	16:30　はりまや橋観光バスターミナル到着
22:00　就寝	

＜１日目＞



＜２日目＞

３．活動に対する評価　※本事業代表者（法人ボランティア）記載

（１）事業目的に対する達成度、事業中の参加者の様子や感想など気づいた点

事業終了後のアンケートによると、全員が「これからも自然の中で遊びたいと思いますか。」という問いに対して、全員が「そう思う」、または「ややそう思う」と回答していた。また、「キャンプで学んだこと、考えたこと」についての自由記述欄では、多くの子どもが自然について新たに知ったことや自然の良さを書いていた。このことから、事業目的に対する達成度は、100％であるといえる。

どの活動も子どもたちが楽しそうに取り組んでおり、また実際に楽しかったという声が多かったため、参加者の満足度が高かったと考える。協力することの楽しさや素晴らしさについて言及したり、達成感を感じたりしている参加者が多く、事業のねらいを概ね達成することができた。

（２）今回の事業を通して学んだことは何か

今回の事業を通して、組織を動かすことの難しさや人に考えや思いを伝えることの難しさを感じた。企画段階では、どのように伝えたら企画の立て方や説明を理解してもらえるか、どのようにしたら気持ちが伝わるのかを考えてミーティングに臨んだ。また、自分の指示や言葉でメンバーが動くので、もっと自信をもって指示を出したら良かったと思った。実際に企画者の立場に立ってみると、今まで参加してきたいろいろな行事の裏には、こういった参加者からは見えない働きがあったのだと

いうことに気付くことができた。

また、企画者の一人から、「前回参加した時よりもより自主企画の企画から実施までの一連の流れを知ることができた」という声が上がった。企画の立て方や事業の趣旨をきちんと説明したことで、企画の立案、実施への理解につながったと考える。

（３）今回の経験を今後どう活かしていくか

今回はスケジュールの設定が厳しく、当日やりたいことができない場面が生じた。そのため、事業の趣旨に沿うような導入や振り返りを十分に行うことができなかった。だから、今後のイベントや事業では余裕をもったスケジュール管理と目的設定を行いたいと感じた。また、自分の好き(得意)な分野での事業だったこともあり、みんなで楽しみながら企画を行えたので、今後も自分の好き(得意)なことを伸ばし、地域や教育分野での企画を行いたい。

企画した教育事業を実施する中で、情報共有の重要性や、企画を立てる際の計画管理や、当日の時間配分に余裕をもって行うことの大切さを実感した。このようなことは、教育事業の運営に限らず、社会人になったときにも重要になることだと感じたため、これからも意識して今後の物事に取り組んできいきたい。

４．ボランティアに対する支援について　※ボランティア・コーディネーター記載

企画段階では、オンラインミーティングを複数回行いながら、事業の趣旨を明確にし、その趣旨に沿ったプログラムとなるよう支援した。予算や人員、時間や場所などの制約がある中で、できる限り企画者の思いや願いに沿った教育事業となるよう努めた。

概ね趣旨に沿った教育事業が実現できたと思う。一方で、協力団体との連絡・調整等においては課題も多かった。今後は、スケジュール管理や調整等にもっと積極的に関わるよう努めたい。

ボランティア育成ビジョンにある、「組織的に」事業を企画・実施するという点においては、今後高知大学や高知県立大学に限らず、様々な所属のボランティアが増えていくことを考えると、これまで以上にリーダーシップをとることができるボランティアの養成が必要であると感じている。ボランティア養成講座やリーダートレーニングを通じて、育成に努めたい。

５．目指したいボランティア像に対する評価　※ボランティア・コーディネーター記載

本事業を通して目指したい法人ボランティア像は、以下の２点であった。

① 青少年を対象とした体験活動事業を組織的に企画、実施する。

② ボランティア活動を通じて学んだことを、生涯を通して実践し体験の重要性を広く家庭や社会に伝えられる人材になる。

①については、今回主担当を務めたボランティア（大学４回生）が率先して範を示してくれたことで、後進の育成につながった。ただし、「７．ボランティアに対する支援について」で述べたように、「組織的に」事業を企画・実施するという点においては、今後高知大学や高知県立大学に限らず、様々な所属のボランティアが増えていくことを考えると、よりリーダーシップをとることができるボランティアの養成が必要であると感じている。

②については、事業後の振り返りにおいて、今後のボランティア活動の充実や後進の育成について言及する声が多かった。このことから、②の法人ボランティア像に迫ることができたと考える。

開所 50 周年記念事業

実施概要

１．記念式典

日　時：令和７年 10 月５日（日）11 時 00 分～12 時 00 分

会　場：国立室戸青少年自然の家　体育館

司　会：小原次長

次　第：オープニングセレモニー

高知大学大学院スポーツ・芸術文化共創専攻・教育学部によるガムラン演奏　指導：金 奎道　高知大学教育学部准教授

（１）開式の辞

（２）国歌斉唱　　全員起立の後、前奏入り CD を流して斉唱

（３）式　　辞　　国立室戸青少年自然の家　所長　西岡　敬三

式辞用紙を使用して読上げ用原稿を作成。

（４）挨　　拶　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　　理事長　　古川　和

（５）祝　　辞　　あべ　俊子　　文部科学大臣

（代理：神山　弘　総合教育政策局　社会教育振興総括官）

山崎　正恭　　衆議院議員

広田　一　　参議院議員

梶原　大介　　参議院議員

植田　壯一郎　室戸市長

受田　浩之　　国立大学法人高知大学 学長

（６）来賓紹介

（７）祝電披露　　祝電披露は代表１名、以下はご芳名のみ披露

（８）青少年代表メッセージ　元法人ボランティア　田辺　秀

（９）感謝状贈呈　　50 周年記念事業協力団体　むろと廃校水族館、室戸青少年育成会

（10）50 周年記念演奏　須賀麻里江（ヴァイオリン）ヴァイオリニスト

前田 克治（ピアノ）高知大学教育学部教授

（11）閉式の辞

２．祝賀会

日　時：令和７年 10 月 5 日（日）12 時 20 分～13 時 20 分

会　場：国立室戸青少年自然の家　食堂

司　会：天畠総務・管理係長

次　第

（１）開式の辞

（２）挨　　拶　　国立室戸青少年自然の家　所長　西岡　敬三

（３）祝　　辞　　弘田　兼一　高知県議会議員

（４）乾　　杯　　常井　玄　　室戸ジオパーク推進協議会事務局長

（５）歓　　談

（６）アトラクション　50 周年記念参加者インタビュー「今でも忘れられない！当時の〇〇」

土佐室戸勇魚太鼓

（７）歓　　談

（８）万歳三唱　　坂井　智空　室戸青少年育成会理事長

（９）閉会の辞

３．50 周年記念アトラクション

日　時：令和７年 10 月 5 日（日）14 時 30 分～14 時 50 分

会　場：奈良師-元海岸

司　会：西岡所長

次　第：むろと廃校水族館との協働アトラクション

（１）開式の辞

（２）説　　明　　若月　元樹　むろと廃校水族館館長

（３）アトラクション　ウミガメの記念放流

（４）閉式の辞

４．50 周年記念事業の様子について

国立室戸青少年自然の家は、昭和 50 年 10 月に学制 100 年を記念し全国１番目の国立少年自然の家として、太平洋側に初めて設置された。多くの利用者や関係者に支えられ、開所 50 周年という節目を迎えることができた。このことを記念し、令和７年 10 月５日に「50 周年記念事業」を実施した。50 周年記念事業は、記念式典、祝賀会、50 周年記念アトラクションの３つの内容で実施し、大盛況のうちに終えた。

（１） 50周年記念式典

多くの関係者や OB が参加し、祝辞や多くの祝電を賜った。協定を締結している高知大学大学院スポーツ･芸術文化共創専攻や教育学部によるガムラン演奏､｢サマーコンサート in 室戸」で協働した関係者のヴァイオリン演奏により、会場は大いに盛り上がった。

国立室戸青少年自然の家は、地域の青少年教育の拠点として、これまでの成果を活かしつつ、青少年教育のみならず、室戸市を中心とした地域の生涯学習の拠点となるべく、外部との連携・提携を強化することで利用者層の幅を広げ、新たな魅力的な事業に取り組んでいく予定である。

（２）祝賀会

関係者やOBによる祝賀会を実施した。参加者に「今でも忘れられない！当時の〇〇」という題目でインタビューを実施し、当時を振り返ってもらった。参加者の多くが当時を懐かしんだことにより、祝賀会は活気に満ち、大盛り上がりとなった。

また、室戸市を拠点に活躍している「土佐室戸勇魚太鼓」の迫力あるダイナミックな演奏が会場を沸かせた。参加者からは、「当時の同僚と話せたことで、あの時の出来事が昨日のことのように思い出される。参加して良かった。」との声をもらった。

（３）50周年記念アトラクション

協定を締結している「むろと廃校水族館」の協力の下、ウミガメの記念放流を実施した。館長からこれまでのウミガメの経緯や放流の説明を受け、参加者は岸から沖に向かって泳いでいくウミガメを見えなくなるまで優しく見守った。参加者からは、「50周年という節目で、ウミガメ放流のアトラクションに立ち会えて良かった。自然の家を運営する中で色々困難なこともあると思うが、新しい価値を創造してほしい。」との声があった。

令和７年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

くろしお祭り

１．事業の概要

○　事業の趣旨

　地元で活動する諸団体と協力して、地域の未来を担う子供たちのチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。

○　実施期間　令和７年１０月５日（日）日帰り

○　参加者数　参加者　小学生１３名　高校生４名　大人５０名

○　活動プログラム

時刻	１０月５日（日）
１０：００	受付開始 協力団体による出展ブース ・クラフトコーナー　室戸青少年自然の家（竹細工、流木クラフトなど） ・淡路青少年交流の家　・鯨館・ジオパーク協議会 体験活動コーナー　室戸青少年自然の家（焚き火教室）・廃校水族館 ※消防車・警察車 昼食　※うみがめパン　　※キラメッセ（お弁当）
１４：００	終了・・・ウミガメ放流イベントへ

２．活動の様子

【くろしお祭りブースの様子】

３．事業の成果と課題

○　事業の成果

・各ブースへの入退場を自由にしたことで、子どもだけでも参加し、体験できる場を提供できた。

○　事業の課題

・１泊２日でのイベントにしないと人数確保は難しいと考える。

・来訪者数を確保する場合は、海の駅とろむ等自然の家以外で行うことも考慮する必要がある。

令和７年度　地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

防災キャンプ in 室戸

１．事業の概要

○　趣旨

南海トラフ巨大地震や大雨等の災害時を想定しながら様々な体験活動を行い、避難時の知識を得たり、自分たちにできることを考えたりすることで、自助・共助の力を育む。

○　実施期間

令和７年１０月２５日（土）　～　令和７年１０月２６日（日）　１泊２日

○　参加者数　１５名

○　講師　　室戸ジオパーク推進協議会

○　活動プログラム

１０月２５日（土）	１０月２６日（日）
12:30　高知駅コーナン店前発 15:30　室戸ジオパークセンター受付 15:45　開会式・アイスブレイク 16:00　高知県・室戸の地形について知ろう 津波避難シェルターって何？ （シェルターで１泊） 18:30　夕食（避難時食） 20:45　就寝準備 21:30　就寝（津波避難シェルターで１泊） ※お風呂なし	6:30　起床・身支度 7:30　朝食（避難時食） 8:30　清掃・片付け 9:30　地震や津波について知ろう 12:00　昼食（弁当） 12:45　ふりかえり・アンケート・閉会式 13:00　送迎バス　出発 16:00　高知駅コーナン店前着

２．活動の様子

高知県室戸市がどの様な地形なのかをジオパークセンターで学んだ。その後、都呂津波避難シェルターへ移動し、津波避難シェルターの役割等を学んだ後、避難後に電気・ガス・水道が使えない状態での食事やトイレ等がどの様な感じになるのかを体験した。避難シェルター内で１泊した翌日は、ジオパークセンターで津波がどの様に発生するのか、また、どの様なことに注意して避難すればいいのかを学んだ。

（避難所での食事の様子）

（シェルター泊の様子）

（津波発生実験の様子）

３．事業の成果と課題

○　参加者の感想

・地震や津波は思ったよりこわい事がわかった。
・津波の危険さや速さ、災害の時どこへ逃げたらいいのかを知れた。
・津波がどのような流れで出来るのか知ることができた。
・防災食は以外と美味しいことを知った。
・お菓子でも避難時食になるのを知ることができた。
・友だちができて、夜とか楽しかった。
・シェルターで寝るのが楽しかった。

○　事業の成果

・地震発生から津波のメカニズム等を、模型を用いて行うことでイメージし易くできた。
・津波の速さ等を知ることで、自身が避難する時にどうするのか改めて考える場にできた。
・電気や水道が使用できない状況での食事やトイレまた、水を使用せず行える洗髪等を体験することができた。

○　事業の課題

・年齢が近いメンバーだけで、日常生活とは違う状況での食事や宿泊場所の為、低学年になればなるほどお泊り体験として楽しかっただけにならないようにする必要がある。
・災害発生から避難所への移動時の場面や被害状況によっての避難所での生活レベル等や対象年齢等を考慮し計画する必要がある。

令和７年度 課題を抱える青少年を支援する体験活動推進事業「生活・自立支援キャンプ」

むろと元気塾～親子で室戸に泊まり隊！～

１．事業の概要

○　事業の趣旨

ひとり親家族の子ども達が，普段体験できない活動にチャレンジするとともに，集団宿泊生活を通して，規則正しい生活習慣の大切さと自分の思いや考えを伝えることの良さを感じる機会とする。また，ひとり親の悩みを同じ境遇の親同士で共有することで，子育てへの前向きな気持ちを高め，子どもとの交流を通して親子の絆を深める。

○　実施期間

令和７年１２月２０日（土）～１２月２１日（日）　１泊２日

○　対象者・参加者数

１０家族程度　最大４０名

（１家族あたり保護者１名＋４歳～中学生までの子ども３名まで）

参加者数　２５名（１０家族）

○　活動プログラム

	１２月２０日		１２月２１日
８：５５	はりまや橋観光バスターミナル出発	６：３０	起床・自主点検・移動
１１：４５	自然の家到着、開講式	７：１５	朝のつどい
１２：００	昼食（食堂）	７：３０	朝食（食堂）
１３：００	入所オリエンテーション	８：３０	退所準備
	アイスブレイク	８：４５	退所点検
１３：３０	親子でスポーツ大会	９：００	自然の家出発
１５：００	【保護者】ブレイクタイム		（自然の家
	⇒野外炊事見学		⇒室戸ドルフィンセンター）
	【子ども】野外炊事（カレー作り）	９：４５	イルカの餌作り体験
１８：００	夕食（カレー）	１２：００	昼食（室玄）
１９：３０	配宿・ベッドメイキング	１３：００	閉講式
２０：００	クリスマス工作	１３：１５	室玄　出発
２１：００	入浴・就寝準備	１６：１５	はりまや橋観光バスターミナル到着
２２：００	就寝		

２．活動の様子

＜貧困対策事業として、どのような点に配慮して実施したのか＞

ひとり親家庭では、遠方への旅行や体験活動の機会をもつことが難しいことが多い。また、保護者はお子様から目を離すことができないことが多いため、体験活動の種類が限定的であることも多い。そこで、本事業では親子で協力して取り組む活動とは別に意図的に親と子が別々の活動に取り組む時間を設定した。子どもたちの自主性を育て、保護者はそうした子どもたちの姿を見て、お子様の新しい一面を感じられる機会になるようにした。

クリスマス工作では、大きな松ぼっくりツリーをどこに飾るかを家族で話し合ったうえで、協力して１つの作品を作ることとした。具体的な役割分担の仕方は各家族にお任せしたが、どの家族も保護者（もしくは子ども）のみが作業するのではなく、常に親子で話し合いながら制作に取り組む姿が

見られた。

「ブレイクタイム」と「野外炊事」では、本事業で唯一親子が別々に活動した。保護者は「ブレイクタイム」で、子どもと離れ、ひとり親同士でリラックスして情報交換をする時間をとることができた。ひとり親家庭支援センターの職員の方にもご参加いただき、ひとり親固有の悩みを相談するきっかけを作ることもできた。一方で、子ども達は日頃世話になっている保護者に対して感謝の気持ちを伝えるべく、「野外炊事」でカレー作りを行った。未就学児がご飯を、小・中学生がカレーを担当し、全て子どもたちの手で作ることができた。「ブレイクタイム」から戻ってきた保護者に、米を研いだことや野菜の皮をむいたことなどを嬉しそうに報告する子どもたちの話を聞きながら、おいしそうにカレーを堪能する保護者の表情もにこやかであった。

＜今回の事業で新たに取り入れたプログラムについて＞

・クリスマス工作

クリスマス直前の実施となったため、クラフト活動を「クリスマス工作」に変更した。親子で松ぼっくりに色をつけたり飾り付けをしたりして、世界に一つだけの「松ぼっくりツリー」を制作し、本事業の思い出として持ち帰ってもらえるようにした。家族によって子どもの年齢や人数も異なるため、大きな松ぼっくりを家族に１つ、もっと作りたい家族は小さな松ぼっくりを一人一つまで使用してよいこととした。事業実施後に行ったアンケートによると、満足６家族、やや満足４家族であった。「一緒に何か作る経験があまりなかったのでよい経験になった」、「１人で作るのではなく、一緒に作るというのがよかった」という感想が寄せられた。一方で、「ビーズのような小さな物をボンドで取り付けるのは、私の子どもの年齢では難しかった」という声もあった。飾りの大きさは、発達段階を考慮して準備する必要があった。

・親子でスポーツ大会

参加した１０家族を２チームに分け、様々なリレーを行った。本事業の始めのプログラムに位置付け、身体を動かしながら参加者の緊張を解す機会にもなった。中でも、「好きなものなあに？リレー」は、子どもが保護者の好きな者を当てるという趣向のリレーで、毎日一緒に生活している保護者の以外な一面を知ることになった子どもたちも多かった。参加者からは、「他の家族とコミュニケーションが取れる工夫がされており良かった」、「親子運動会のような機会があることで一緒にテンションを上げて楽しむことがなかったと思う。他の家族とも協力することで一体感もできた感覚で楽しさが増した」といった声が寄せられた。一方で、時間が足りなくなってしまい予定していたドッジボールができなかったことを残念に思う子どもが複数いた。今後は法人ボランティアを含め、より準備時間を確保できるよう努めたい。

３．事業の成果と課題

○　事業の成果

実施後に行ったアンケートによると、本事業の総合的な評価は１０家族全てが「満足」と回答していた。

・日頃の悩みを話せたり、いつも体験できないようなことばかりで、親子で楽しい時間を過ごせた
・野外炊飯のときに、不安はあったが、「チャレンジさせてみましょう」と言っていただいた。人に迷惑をかけてしまう恐れがあったとしても、チャレンジして、失敗して、自分で身に付けていく機会を作ってあげる重要性を感じた。
・親子で充実した時を過ごすことができた。子どもが自らやりたいということが多く、たいへん嬉しく思った。いつもは時間に追われて大人がやることが多いが、余裕がある時は今回の体験を日常生活に取り入れていきたい。
・この２日間で子どもの色々な顔が見えて、自分自身も普段自然の中で過ごすこともないため、新鮮な気持ちで過ごすことができた。参加者も同じシングルマザーなので、悩みも共有することができ良い時間だった。

このような声が寄せられたことから、事業のねらいは達成できたと考える。

○　事業の課題

今回の参加者の子どもの内訳は、中学生１人、小学校高学年３人、同中学年１人、低学年４人、未就学児６人であった。比較的小さなお子様連れのご家族の参加が多かったといえる。そのような背景もあってか、各プログラムの活動内容やルールの理解が難しいと思われることがあった。対象をもう少し絞ったり、活動内容やルールをより易しいものにしたりしてもよいかもしれない。

一方で、対象を絞りすぎると参加者が十分に集められない可能性が高まる。実施後に行ったアンケートによると、「参加しやすい季節・時期」は様々であったが、春や秋の比較的気候が穏やかな時期の実施を希望する声が目立った。それぞれの季節によって活動内容の選択肢は変わってくるので、実施時期に併せて対象や活動内容や実施回数を検討していきたい。

室戸法人ボランティア活動報告

1.　在籍数（登録者）

学年等	男性	女性	合計
大学４回生	１	１０	１１
大学３回生	３	４	７
大学２回生	３	５	８
大学１回生	３	９	１２
大学院生・社会人	１	１	２
合計	１１	２９	４０

（名）

２．活動一覧

事業名等	参加人数
室戸ファミリープログラム	4
地域探究プログラム オリエンテーション合宿in室戸～室戸で新しい自分発見プロジェクト～	1
【事前準備】 フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう!～（ボランティア自主企画）	4
【事業当日】 フレモリキャンプ～自然にフレてモリモリ学ぼう!～（ボランティア自主企画）	7
くろしお祭り【開所50周年式典】	6
防災キャンプ in 室戸	2
むろと元気塾～親子で室戸に泊まり隊!～	3
2月リーダートレーニング	6

（名）

３．表彰

法人ボランティア表彰 ２名　（高知大学 ２名）

活動プログラム実施回数・指導状況

大分類	小分類	実施回数	利用者数	指導回数	指導を受けた人数	指導者数			
						研修指導員	職員	ボランティア	合計
登山・ハイキング・散策	所内散策	35	282	0	0	0	0	0	0
	合計	35	282	0	0	0	0	0	0
水辺の活動	シーカヤック	25	704	25	704	8	45	0	53
	磯観察	12	388	12	388	1	22	0	23
	合計	37	1092	37	1092	9	67	0	76
炊飯・生産活動	野外炊事（カレー）	79	3503	57	3384	6	63	0	69
	合計	79	3503	57	3384	6	63	0	69
創作・制作活動	竹笛	18	50	1	18	0	1	0	1
	七宝焼き	5	91	5	91	0	10	0	10
	焼き板工作	5	127	5	127	3	6	0	9
	流木クラフト	32	590	14	510	0	18	0	18
	竹箸	1	50	1	50	0	1	0	1
	合計	61	908	26	796	3	36	0	39
ゲーム・レクリエーション活動	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾌｫﾄﾋﾞﾝｺﾞ Comoact version	1	40	1	40	0	1	0	1
	ｷｬﾝﾄﾞﾙﾌｧｲｱ	23	1149	0	0	0	0	0	0
	ｽｺｱｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ	2	425	2	425	0	2	0	2
	冒険の森遊び	15	382	0	0	0	0	0	0
	おもしろ自転車	27	482	0	0	0	0	0	0
	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲｱ	4	430	0	0	0	0	0	0
	茶摘み	15	51	0	0	0	0	0	0
	ナイトハイク	8	495	0	0	0	0	0	0
	室内フォトビンゴ	6	97	6	97	0	6	0	6
	ロープワーク	4	80	4	80	0	4	0	4
	基地づくり遊び	9	236	9	236	0	9	0	9
	アートフォトビンゴ	1	17	1	17	0	2	0	2
	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾌｫﾄﾋﾞﾝｺﾞLong version	6	497	6	497	0	6	0	6
	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾌｫﾄﾋﾞﾝｺﾞShort version	3	267	3	267	0	3	0	3
	合計	124	4648	32	1659	0	33	0	33
歴史・文化、音楽・芸術活動	鯨館見学	1	50	0	0	0	0	0	0
	合計	1	50	0	0	0	0	0	0
自然観察活動・環境教育活動	室戸岬探勝	9	319	4	147	0	4	0	4
	ｼﾞｵﾊﾟｰｸｾﾝﾀｰ見学	14	483	0	0	0	0	0	0
	ｼﾞｵﾊﾟｰｸﾌｫﾄﾋﾞﾝｺﾞ	8	320	7	260	0	7	0	7
	イルカの観察	5	174	0	0	0	0	0	0
	廃校水族館見学	18	630	0	0	0	0	0	0
	合計	54	1926	11	407	0	11	0	11
総合計		391	12409	163	7338	18	210	0	228

管理運営報告

１．職員の主な研修・講習等

○　「新任職員研修」　令和７年４月２日
（新規採用職員、人事交流職員/１名参加）
・所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明等

○　「海活動時における避難方法に係る研修」　令和７年５月１４日（５名参加）
・避難経路及び避難場所の実地確認、避難誘導の方法について説明

○　「救急救命・ＡＥＤ講習会」　令和７年５月２８日（１０名参加）
・室戸市消防署職員による講義及び実践練習

○　「熱中症予防研修」　令和７年６月３日（６名参加）
・熱中症の発生要因、予防方法、症状への対処方法について説明

○　「避難・消火訓練」
第１回　令和７年６月１８日（１１名参加）
第２回　令和８年３月１６日（１１名参加）
・室戸市消防署職員の立ち合いのもと、利用団体が宿泊時の火災発生を想定した避難訓練
消火器を使っての初期消火の実地訓練

２．令和７年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

日　　時　　令和７年３月１７日（火）１５時から
場　　所　　国立室戸青少年自然の家
開催方法　　オンライン会議

３．施設整備（主なもの）

○非常用放送設備取替
経年により不具合が発生していた非常用放送設備の取替を行った。

○研修棟入口ドアの修繕
経年により不具合が発生していた研修棟入口ドアの修繕を行った。

○会議室のエアコン取替
経年により不具合が発生していたエアコンの取替を行った。

○ロッジＦ棟の給湯器取替
経年により不具合が発生していたロッジＦ棟の浴室給湯器の取替えを行った。

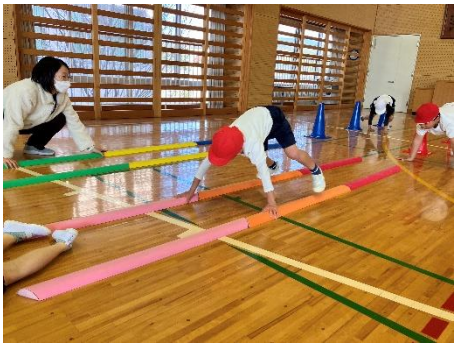
○センター棟、ロッジＥ棟の洋式トイレ取替
経年により不具合が発生していたセンター棟、ロッジＥ棟の洋式トイレの取替えを行った。

広報活動

広報活動としてイベントブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設の PR を行った。

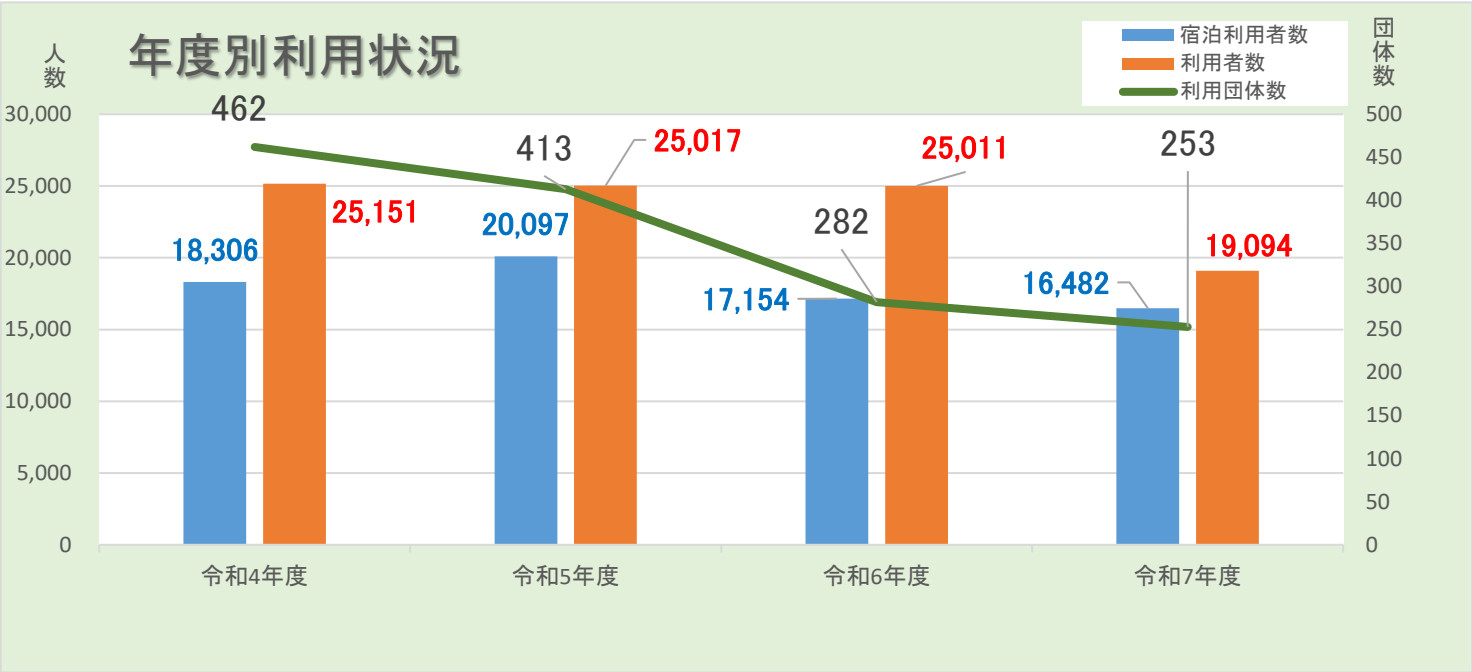
日付	内容	場所	人数
7 月 26 日(土)	ブース出展 土佐室戸鯨舟競漕大会	海の駅とろむ	19 人
8 月 17 日(水)	出前講座 おらんくの室戸大学サマーセミナー	高知県立室戸高等学校	22 人
12 月 12 日(金)	幼児期の運動プログラム	田野町立田野小学校	35 人
2 月 2 日(月)	幼児期の運動プログラム	田野町立田野小学校	31 人
2 月 16 日(月)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	むろと保育園	66 人
2 月 20 日(金)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	羽根昭和保育所	15 人
2 月 24 日(火)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	羽根小学校	16 人
2 月 26 日(木)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	元保育所・吉良川第一保育所	76 人
		計 8 回	280 人

おらんくの室戸大学サマーセミナー

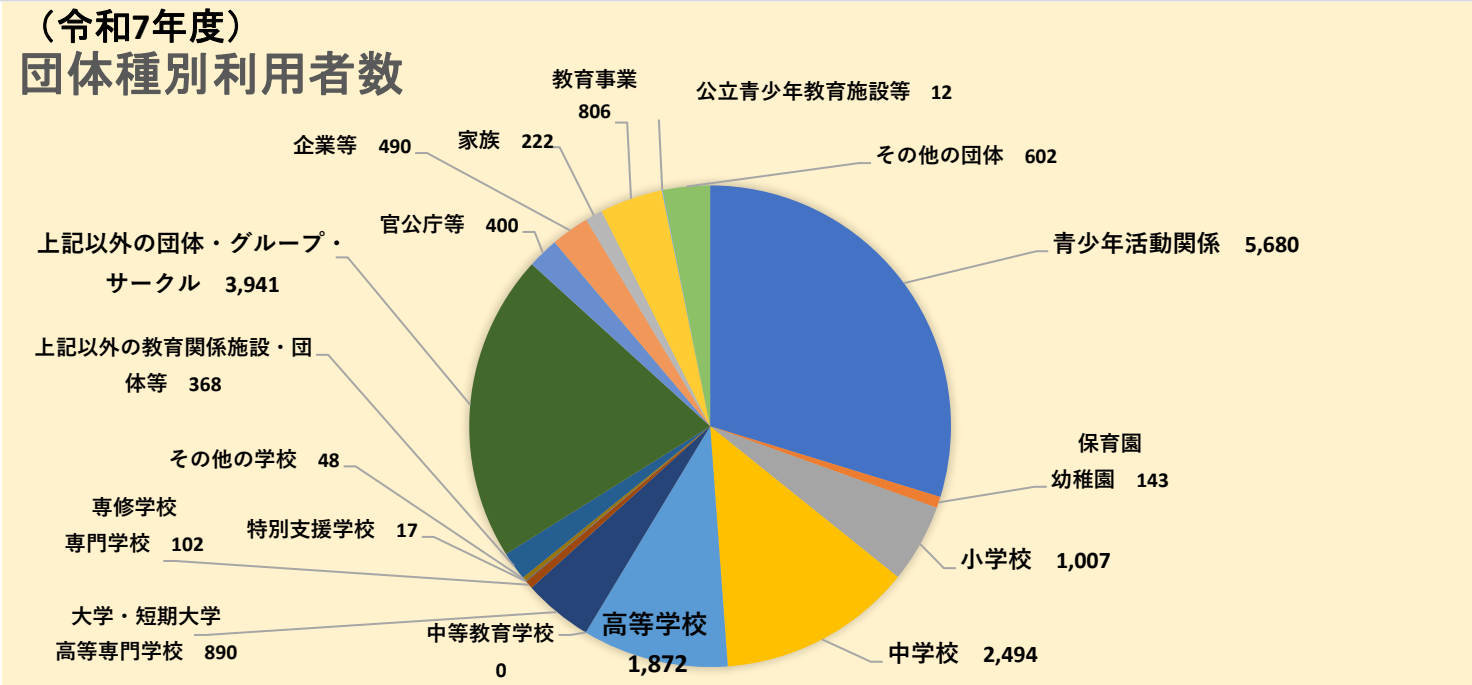


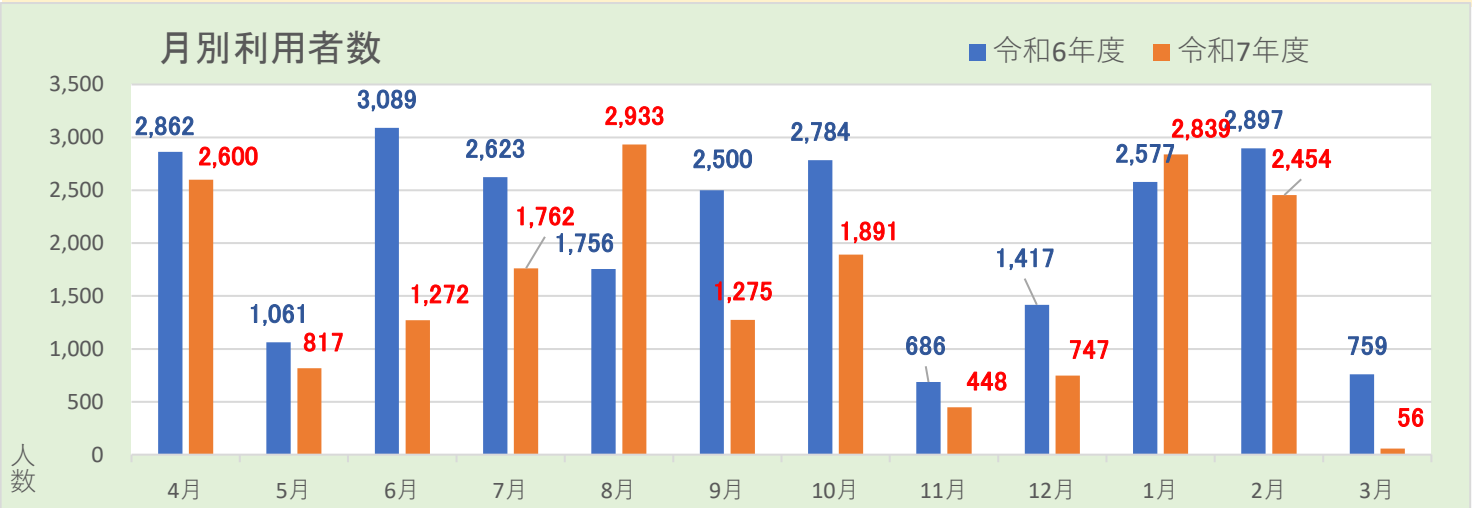
幼児期の運動プログラム

「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊



（令和7年度）





※利用者数：その日の利用者数（例：100人の団体が２泊３日で利用した場合　100人×３日＝300人）